

9月20日 年間第 25 主日

新しい道

マルコによる福音書 9 章 30～37 節

³⁰一行はそこを去って、ガリラヤを通過して行った。しかし、イエスは人に気づかれるのを好まれなかった。³¹それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたからである。³²弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。

³³一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。³⁴彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。³⁵イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」³⁶そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。³⁷「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

他の朗読：知恵の書 2:12, 17～20 詩編 54:3～6, 8 ヤコブ 3:16～4:3

Lectio …読む

今日の聖書朗読の中で、イエスは先週私たちが読んで自分の死と復活についての弟子たちへの教え（マルコ 8 章 31～33 節）を繰り返します。他の人に気付かれることを避け、イエスと弟子たちの間だけで明かされたほど大事な話でした。

マルコは弟子たちが驚いて、怖くてその話について尋ねられなかったと記しています。彼らは間違っていたことを言ったら、ペトロと同じように叱られる（マルコ 8 章 33 節）のではないかと恐れ、黙っていたほうが良いと思っていたのかもしれませんが。あるいは単純に、イエスの言葉をどう受け入れてよいか分からなかったのかもしれませんが。

イエスが死んだら誰が彼らのリーダーになるのか、と考えはじめたことから、だれが一番偉いかという弟子たちの議論が始まったのかもしれませんが。もちろん、イエスはすぐそれに気付きました。弟子たちは議論の内容を打ち明けるのを恥ずかしく思い、黙っていました。イエスは彼らの説明を待ちませんでした。単純な言葉で、彼らに示したのです。それは弟子たちの想像を超えたものでした。

イエスの共同体における権威は、権威を振りかざすことによってではなく、人に対する奉仕によって得られるものです。その当時、子どもは何の権威もなく価値もないと思われていました。しかしイエスの考え方によれば、この「価値のない」人を受け入れる者は、イエス自身と彼をお遣わしになった父なる神を受け入れるのです。イエスの人生観は、決してこの世の考え方と混ざり合うことは出来ません。水と油のようなものです。

弟子たちは、イエスの教えを受け入れるために、新しい価値観を形成しなくてはなりません。イエスと父なる神は、この世が仲間はずれにしているような人々の内におられ、私たちはそのような人々を通して出会うことが出来るのです。もし弟子たちが相変わらずこの世の価値観で考え続けているなら、神の価値観を身につけることはできません。イエスは改めて「わたしの道はこの世の道ではないし、決してそうなることはない。」と言われるのです。

Meditatio …黙想する

弟子たちが、教えについての説明をイエスに尋ねることを怖れたのは、正しい態度だったのでしょうか。あなたは理解できないことについて、イエスに尋ねることが出来ると思いますか。

どうしてイエスは、弟子としての生き方についての教えるために、子どもを例にとったのでしょうか。私たちはこのことから何を学ぶことができるのでしょうか。マルコ 10 章 13～16 節から、さらにもっとどのような洞察を深めることができますか。

イエスは、人々に奉仕するとき、私たちの心の態度が大切だと言われたことについて考えてみましょう。あなたは日々の生活の中でどのようにこれを実践しますか。

Oratio …祈る

詩編 54 編を祈りの内に読んでみましょう。詩編作者と声を合わせて、神への信頼を示すことができますか。この一週間、6 節を繰り返してみてください。「見よ、神はわたしを助けてくださる。／主はわたしの魂を支えてくださる。」と。あなたの人生のどのような具体的な状況で、この真理が当てはまるでしょうか。

Contemplatio …観想する

今日の聖書朗読は現世的な人々の生き方と、神に従う人々の生き方とを比べています。知恵の書 2 章 12、17～20 節は、悪人は神に従う人を嫌うということを示します。悪人は、神に従う人々を見ると神に対する自分の不忠実さを思い出し、疎ましく感じるので、神に従う人々を邪魔しようとするのです。

ヤコブ 3 章 16 節～4 章 3 節の中で、ヤコブはねたみや利己心に対して注意するように勧めています。この神的ではない態度はさまざまな種類の争いや悪をもたらします。私たちは良い実を結ぶ神的な知恵で生きなければなりません。